

## 『信州大学教育の質保証概念図』の解説

令和元年 11 月 20 日 第 197 回教育研究評議会承認

### 【全体の構成】

表面は、「教育の質保証のために『だれが何をするのか』という観点で作られています。学生を質保証に関与させる教育の仕組みとなっているところに本学の特徴があります。

裏面は、表面で述べられている要素を、「内部質保証システム」と「年間 PDCA サイクル」をテーマに再構成したものであり、基本的に同じことを述べています。

表面と裏面左側の箇条書き文が入っている長方形は、次のように色分けされています。

- ・オレンジ： 成績に関すること
- ・グリーン： 達成感に関すること
- ・青： 成績以外の、卒業判定に関すること

「科目 GPA」と「学部・学科全体の GPA」という用語は、それぞれ次の意味で用いられています。

- ・科目 GPA： 一つの授業における受講者全員の GP の平均値。キャンパス情報システムの「履修・成績」の中の「成績評価分布検索」で、自動計算された科目 GPA を閲覧できる。
- ・学部・学科全体の GPA： 学部または学科の卒業生全体の GPA 値。学部・学科の組織としての教育力を表す指標である。

### 【目的と手段】

全体を通して、ここで述べられていることの全てが、「学生が努力し学びが定着する」という基本戦略に収斂するよう意図されています。言い換えると、仮に GPA や授業アンケートの数値等が上がったとしても、そもそもの目的である「学生が努力し学びが定着する」ことが達成されなければ、それは本学の目指すところではない、ということになります。

また、一人の学生という視点に立てば、努力し学びが定着することで、その学生が、最終的には、「自己効力感」を持ち、「確かな学力」を身につけて卒業することをめざす、というようにこの図（『概念図』表面最上部）では表現されています。

「学生が努力し学びが定着する」という目的を達成するための主な手段は次の 2 点です。

- ① 学生が努力し学びが定着するような授業を実施する
- ② 体系的性と水準を主な点検の観点とする、CP に基づくシラバス点検を実施する

### 【手段①：学生が努力するような授業】

どういう授業が「学生が努力し学びが定着するような授業」になるのかについては、『概念図』表面の「学生がすること」の2つめ、

教員が意図的に配置した課題を学生が授業内外で達成していく

を満たすような授業をデザインし実施するということになります。シラバス作成の観点からは、そのような授業のシラバスは次の2点を満たしたものとと言えます。

1. 学生にどのような努力をしてほしいのかをはっきりさせ、そのような努力で達成できる課題を授業に配置すること
2. そのような努力が成績に反映されるような評価のしかたを組み込んでいること

#### 【手段②：CPに基づく授業間調整】

認証評価では、カリキュラムごとに、そのカリキュラムのCPに基づいて教育点検が行われます。具体的

CPに基づき、授業間の調整をする  
カリキュラムの体系性と授業の水準の調整  
各種IR情報(入学試験の成績やGPA, 学習時間調査・新入生調査・大学生調査等)を活用し、学生の実態に合わせて各授業の目標レベルと授業間のつながりを調整する

には、おおよそ、授業が体系的に配置されているかと、その授業が想定する水準が適切であるかの2点を、その学部・学科内で恒常的に点検しているかどうか(=「内部質保証システム」が機能しているか)が認証評価では点検されます。そのため、学部・学科内で体系性と水準について恒常的に点検する仕組みを作っておかなければなりません。

認証評価では、CPに照らして教育点検が行われますが、そこでは、授業はCPが定める授業群の設置意図に従って配置されていることが前提になっています。そのため、体系性については、授業目標の内容、近隣授業との連続性や分担する範囲が、CPに照らして妥当であるかどうか、シラバスの「達成目標」を見て点検されることになります。

水準については、CPが定める授業群の設置意図から見て、DPの形で示されている教育目標に向かっていくための一つのピースとして授業目標の水準が妥当であるかどうか、シラバスの「成績評価の基準」と科目GPA、それに次の「学生による授業アンケート」の①～③とで点検されることになります

- ① この授業が掲げた目標に、あなたは到達しましたか。
- ② あなたは、この授業の一連の経験を通して、達成感を得ましたか。
- ③ この授業のために、あなたは一週間あたりどのくらい授業外で学習しましたか。

授業目標の内容、近隣授業との連続性や分担する範囲がCPに照らして妥当であるかどうかについては、分野内で教員同士のコミュニケーションが日常的に取れているということが、現実的な対策の第一歩になるでしょう。水準の方は、科目GPAと授業アンケート結果が数字で出るため、ここで言う「授業間調整」の作業は水準の方に集中することになるでしょう。

これらの作業では、主導する委員会等にある程度強い権限が付与されている必要があるでしょう。

### 【「水準の調整」と成績評価に関する共通理解の形成】

教育を戦略的に考える機関が、部局の授業の科目 GPA を見比べて、

#### カリキュラムの体系性と授業の水準の調整

各種IR情報(入学試験の成績やGPA、学習時間調査・新入生調査・大学生調査等)を活用し、**学生の実態に合わせて**各授業の目標レベルと授業間のつながりを調整する

学科間・分野間・授業間で **大きな開き** や **極端な数値** がないかどうか

#### 成績評価に関する共通理解の形成

各授業でどのような評価方法がふさわしいか、基準は適切か、を調整する

を点検します。

この点検では、授業間の科目 GPA を揃えることが目的ではありません。個々の授業の目標が学生の実態・実状に則して設定されているかどうかを点検するための手段の一つとして、科目 GPA のバラつきを点検します。その作業を通して、学生の実力に相応しい授業目標を設定し直し、その結果として次年度には適正な努力で学生が 60 点以上の成績を取るような授業になった、という状態が望ましい改善の結果です。

上記の点検作業は、『概念図』表面の「教員がすること」にある、「授業目標への到達度で絶対評価する」という本学の CP で定めている成績評価のしかたを前提としています。この前提から、授業目標の設定が適切であれば、科目 GPA が、2.67（「良」）と 3.33（「優」）の間に入るものと想定されます。科目 GPA がこの範囲から大きく外れる場合には、授業目標の設定が高すぎないか、もしくは低すぎないか、あるいは授業のデザインが適切かどうかを点検する、ということになります。

#### 成績評価をする

#### 授業目標への到達度で絶対評価

### 【学生が努力して学ぶ】

GPA が教育の成果指標として機能するためには、授業の成績が信頼できるものでなければなりません。それを担保するために、授業アンケートで、次の3つを学生に聞いています。

#### 学生による授業アンケートで、

1. 自分が考える**授業目標への到達度**

2. **達成感**

3. その授業のための**授業外学習**

を学生が自分でふりかえる

- ① この授業が掲げた目標に、あなたは到達しましたか。
- ② あなたは、この授業の一連の経験を通して、達成感を得ましたか。
- ③ この授業のために、あなたは一週間あたりどのくらい授業外で学習しましたか。

教員は学生がどれだけ授業目標に到達できているかで成績をつけます。学生も、①で自分がどれだけ授業目標に到達しているかを回答します。①は学生が自分の成績を自己評価したものですから、クラス全体の①の平均値は、学生から見た成績の平均値になります。②で

学生はこの授業で得た達成感を回答します。③で学生は自分の努力の量をふりかえります。努力の質は①と②に反映されることとなります。本学の質保証の仕組みの一つとして、この授業アンケートの①から③を使って科目 GPA の信頼性を支えるというやり方を組み込んでいます。その点検作業がどのようなものになるかは後述します。

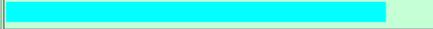
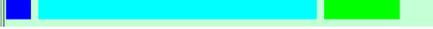
【科目 GPA と授業アンケートの数値の整合性を点検する】

**GPAの点検**  
科目GPAが伝えるものと、授業アンケートの到達度と達成感の数値が伝えるものとの間で整合性が取れているかを点検する

科目 GPA と、「学生による授業アンケート」の①～③の数値を見て、授業を点検するためのデータとします。以下に解釈の例を掲げます。

- ・ 科目 GPA と①の数値がどちらも高い水準である場合：学生が見る自己評価と教員の評価が同水準であった ⇒ **大きな改善は不要**
- ・ 科目 GPA は高いが、②の数値は低い場合：  
授業目標の設定が低すぎる ⇒ **授業目標の水準を上げる必要がある**
- ・ 科目 GPA は低いが、②の数値が高い場合：  
授業についていけなかった学生が多くいた可能性があるが、授業にはやりがいを感じていた ⇒ **授業目標の水準を下げる必要がある**
- ・ ③の数値が教員が思っていたより低いもしくは高い  
⇒ **課題の質と量が学生のレベルに見合っていなかった**

授業アンケートの結果は、「キャンパス情報システム」のトップページの「履修・成績」にある「授業アンケート」をクリックして入ると閲覧できます。授業ごとの集計結果のページに入ると「グラフ表示」というボタンがあり、そこに次のような選択肢ごとの%のグラフが表示されます。上記①から③（アンケート項目では2と7と5）の水準はこのグラフを見て判断します。

設 問	■回答1 ■回答2 ■回答3 ■回答4 ■回答5 ■回答6
1.必修・選択の別を記入して下さい。	
2.授業目標に到達しましたか。	

なお、授業アンケートの回答の①と②の選択肢は、次のように、数字が小さいほど高い評価になっているので注意が必要です。

- |   |
|---|
| <p>2. この授業が掲げた目標に、あなたは到達しましたか。</p> <p>1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない</p> <p>7. あなたは、この授業の一連の経験を通して、達成感を得ましたか。</p> <p>1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない</p> |
|---|